

第2次総合計画施策評価シート《令和2年度分》

施策コード	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】 心豊かで文化を育む人づくりのまち
3 — 4	施策目標	4	文化・芸術の振興
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する		
	目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する		
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

目指すべきまちの姿 市の歴史文化を発信する拠点として、歴史民俗資料館が有効に利用され、歴史文化に対する関心と地域への理解が深まっています。

●主要施策と概要【PLAN】	この1年間の成果及び反省点【DO】	担当課	評価【CHECK】
(1) 文化芸術団体、指導者の育成 ・市民主体の文化芸術活動の一層の活性化を促進するため指導者の育成・確保を図ります。	市文化協会に生涯学習講座1講座の講師を依頼しました。今後も発表の場の提供や生涯学習講座等市主催事業への講師派遣を依頼するなど活動を支援し、市文化協会や市文化財保存会と協働して指導者の育成・確保をに努めます。	生涯学習課	C
(2) 文化財の保存活用 ・無形文化財保存団体への助成及び文化財保存会との協働により市の無形文化財（伝統芸能）の保存と伝承活動を推進します。 ・市の有形文化財の保存・普及事業を推進します。	・コロナ禍により、各地区の祭礼・伝承活動の中止が相次いだため、十分な成果はなかった。無形文化財保存団体への助成は、申請件数が少ないながら実施できました。 ・市内の有形文化財に対し、維持管理費等助成を行い保存に努めたが、普及事業については、事業の中止が相次ぎ十分な成果はありませんでした。	歴史民俗資料館	D
(3) 歴史民俗資料館の有効活用 ・新庁舎建設後の図書館棟への移転を契機に常設展示を見直すとともに、リピーター確保に向けた新たな企画展等を充実します。 ・SNSを活用した、市の歴史文化にかかる、さらなる情報発信を行います。 ・市内小学校との連携により、地域の歴史文化の理解・共有を図ります。	・資料館の移転に向けての改修工事設計業務を実施した。常設展示の新たな案や、利用者増に向けた施設の利用方法等について準備を進めました。 ・SNSの活用については、コロナ禍による臨時休館期間があったが年間を通じて情報発信を行いました。 ・小学校の郷土学習に対し、臨時休館中であっても新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ったうえで対応しました。	歴史民俗資料館	C
(4) 市出身の文化人の顕彰 ・弥富市出身の文化人を中心とした調査研究及び資料収集を引き続き行います。 ・市出身文化人に関する様々な「発信」とガイドボランティア、文化協会との協働により、内外への普及を図ります。	・弥富市出身の文化人については、市民グループとの連携により市内の所在情報が収集でき、複数の所蔵者から多くの寄贈がありました。 ・コロナ禍により市民文化展や藤祭り等、文化人についての普及事業の機会がなくなり、市民グループの活動も制限されたことから情報発信については十分な成果は得られませんでした。	歴史民俗資料館	D

●施策目標に対する市民満足度	単位	現状値 (2017年度)	目指す方向性	中間値 (2022年度)
芸術・文化活動の振興	%	14.8	↗	
文化財の保存・活用	%	15.9	↗	




●成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値 (目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(1) 市文化協会登録部員数	人	622	614	537			630	640	
(1) 市文化協会登録団体数	団体	41	39	36			43	45	
(2) 伝承活動奨励補助事業の実績数	地区	45	44	6			45	45	
(3) 歴史民俗資料館入館者数(直近5年間の平均値)	人	4,578	5,378	4,896			6,000	7,000	
(4) 文化人の普及に関する事業開催数(展示会、講座、見学会等)	回	5	8	0			10	10	

事業 No	実施計画に係る事業名	担当部署	今後の進め方【ACTION】	
(1)	文化芸術活動補助事業	生涯学習課	文化協会の活動内容や各種イベント数について見直しができるよう協議検討する必要があります。	改善
(2)	無形文化財伝承活動奨励補助事業	歴史民俗資料館	令和2年度は、コロナ禍により無形文化財の保存伝承活動は困難な状況となりましたが、地域の活動を衰退させないためにも引続き事業を継続する必要があります。	現状維持
(3-1)	歴史民俗資料館移転事業	歴史民俗資料館	令和3年度中に、移転先の改修工事及び移転、展示作業を完了し、令和4年4月のオープンを目指します。	終期設定
(3-2)	企画展開催事業	歴史民俗資料館	企画展開催期間以外の展示室やロビー等を活用して展示を行うなど、施設の有効利用を進めます。また、引き続きSNSによるPRにも努めます。	現状維持
(4-1)	文化人情報発信事業	歴史民俗資料館	資料収集、調査研究については今後も継続します。情報発信の機会を増やせるよう、移転後の歴史民俗資料館の展示に、年間複数回にわたり文化人の企画展を定期的を実施し、市ホームページの活用など情報発信手法を変えながら計画的にすすめていきます。	改善
(4-2)	ガイドボランティア及び文化協会協働事業	歴史民俗資料館	今後も関係団体に対し、資料調査や情報提供などの活動支援を行い、団体活動を活性化する必要があります。また、歴史民俗資料館の移転後にはギャラリー等での展示会開催を計画していきます。	改善
施策の今後の方針 【ACTION】		新型コロナウイルス時代に対応した事業の在り方を検討しながら、伝統芸能や文化財の保護・保存を進め、次世代に継承するとともに、これらの活動を通じ郷土愛の醸成に努めます。		

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(1)	文化芸術活動補助事業	生涯学習課	生涯学習グループ	令和3年6月20日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	1	文化芸術団体、指導者の育成	
	主要事業		文化・芸術活動補助事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市民主体の文化芸術活動の一層の活性化を促進するため、団体の育成、指導者の確保を図ります。					主な協働・ 関連団体等	市文化協会
事業概要	生涯学習講座への講師派遣の依頼や発表機会の提供、活動費の補助など市文化協会の活動支援を促進します。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	
事業の開始・ 終了	開始年度	2006	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	市文化協会運営 活動費補助金	1,102	市文化協会運 営活動費補助 金	1,800	市文化協会運 営活動費補助 金	1,800	市文化協会運 営活動費補助 金	1,800
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合 計	1,102	合 計	1,800	合 計	1,800	合 計	1,800
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(1) 市文化協会登録部員数	人	622	614	537			630	640	
(1) 市文化協会登録団体数	団体	41	39	36			43	45	

指標の分析 文化協会に登録する各部において高齢化を理由に部員数が減少しています。さらに、部員数の減少が進み、部の存続が困難となって退会に至るケースが見受けられます。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	高齢化の影響で部員数、団体数ともに減少傾向にあり、現在500名以上の部員を抱えておりますが、市民の生活文化の向上を目的としており、市の社会教育に関する諸政策への協力、各種文化事業の開催に対する援助等の事業を行っており、市民に生涯学習の場を提供する必要があります。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	新型コロナウイルス感染症の影響により、協会事業が中止となったため、補助金交付要綱に則り、補助金交付額を39%減額し、適切に補助金を支出しました。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体で誰が実施するのが良いか 	市の文化行政への貢献度の観点から、市が事務的な面や資金的な面で援助する必要があります。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	運営活動費の補助により協会を存続することができ、市民に文化芸術活動の場を提供することができます。また、市の社会教育に関する諸政策への協力や、各種文化行政に対する援助により、総合計画の施策目標である「文化・芸術の振興」を実現することができ、市の文化行政の発展に寄与しています。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
文化協会の活動内容や各種イベント数について見直し出来るよう協議検討をする必要があります。	改善

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(2)	無形文化財伝承活動奨励補助事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和3年7月8日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	2	文化財の保存活用	
	主要事業		無形文化財伝承活動奨励補助事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市内各地域に伝わる芸能（無形文化財）の保存と伝承を推進し、地域での活動の活性化に資することを目的とします。					主な協働・ 関連団体等	弥富市文化財保存会
事業概要	各地区で行われる伝承活動に対し、1地区5万円を上限に助成するとともに、文化財保存会との協働により伝承活動を推進します。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	弥富市文化財等補助金交付要綱
事業の開始・ 終了	開始年度	2006	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	無形文化財伝承活動奨励補助金 (補助額)	286	無形文化財伝承活動奨励補助金 (補助額)	2,250	無形文化財伝承活動奨励補助金 (補助額)	2,250	無形文化財伝承活動奨励補助金 (補助額)	2,250
文化財保存会補助金 (補助額)	9	文化財保存会補助金 (補助額)	700	文化財保存会補助金 (補助額)	700	文化財保存会補助金 (補助額)	700	
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
合計 (補助額)	295 0	合計 (補助額)	2,950 0	合計 (補助額)	2,950 0	合計 (補助額)	2,950 0	

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(2) 伝承活動奨励補助事業の実績数	地区	45	44	6			45	45	

指標の分析
 コロナ禍により各地区に伝わる伝統芸能の伝承活動の実施が大変困難であり、ほとんどの地区が秋の祭礼を中止しました。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	伝承活動を実施する地区は市内全域にあり、祭りの担い手不足という共通の課題を抱えています。伝統的な祭りの保存伝承は、文化の振興だけでなく地域の活性化のためにも必要です。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	伝承活動奨励補助事業は、令和2年度から、災害等により補助条件の活動日数に満たない場合や祭礼が中止の場合でも補助できることとしたため、活動が困難な状況でも6地区が実施しました。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	対象地区は市内のほぼ全域にわたっており、公平に補助を行うため市が実施すべき事業です。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	令和2年度はコロナ禍により目標達成には大きく及びませんでしたでしたが、長期的な継続により地域の文化財の保存活用が図られ、文化の振興と地域の活性化に資することができます。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
令和2年度は、コロナ禍により無形文化財の保存伝承活動は困難な状況となりましたが、地域の活動を衰退させないためにも引続き事業を継続する必要があります。	現状維持

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(3-1)	歴史民俗資料館移転事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和3年7月8日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	3	歴史民俗資料館の有効活用	
	主要事業		歴史民俗資料館移転事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	現在の歴史民俗資料館は、昭和46年建築の中央公民館の増改築施設であるため老朽化が進み、今後、修繕等の維持費に多額の予算を要する。また単独館のため入館者が伸び悩んでおり、これらの課題を解決するため、図書館棟に複合化し、資料館の有効活用を図ります。					主な協働・関連団体等	弥富ふるさとガイド
							資料館を考える市民ワークショップ
事業概要	本庁舎完成後に、保健センターの跡地を改修し、歴史民俗資料館を移転します。					関連する個別計画・根拠法令等	公共施設再配置計画
事業の開始・終了	開始年度	2019	年度	終了年度	2022	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	改修工事設計委託	2,405	改修工事設計委託	2,503	旧保健センター改修工事	59,950	記念事業(特別展等)	300
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
					改修工事監理委託	2,071		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
					移転業務委託	500		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
					備品購入費	300		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合計	2,405	合計	2,503	合計	62,821	合計	300
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	

指標の分析	
-------	--

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	現在の歴史民俗資料館は、小規模な単独館で、駐車場が少なく公共交通が不便であるなどの課題がありますので、施設が老朽化が進んでいるこの機会に移転し、利用者の利便性を図る必要があります。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	旧保健センターの部屋割りを大きく変えない改修工事設計を行い、資料の運搬や展示作業を職員で行う計画とするなど経費節減に努めています。また、空調設備の部分化、照明のLED化により開館後のコスト削減を目指します。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	市の歴史・文化等に関する資料を将来にわたり保存するとともに、広く情報発信を行いそれらを正しく伝えることが必要です。また、学校教育に資することなどからも市が行うべき事業です。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	移転により市内外からの利便性が高まるとともに、図書館との複合化による利用者増の相乗効果が期待されます。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
令和3年度中に、移転先の改修工事及び移転、展示作業を完了し、令和4年4月のオープンを目指します。	終期設定

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(3-2)	企画展開催事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和3年7月8日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	3	歴史民俗資料館の有効活用	
	主要事業		企画展開催事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	リピーター確保の観点から有効である企画展を開催し、弥富市の歴史等への理解を深めるとともに市のPRを行い、歴史民俗資料館の有効活用を図ります。					主な協働・ 関連団体等	
事業概要	資料館活動で蓄積された資料をもとに、弥富市に関する様々なテーマで年間2回～3回の企画展を開催します。また、冬期には、小学校3年生の「昔のくらし」の学習に資する展示を行います。						関連する 個別計画・ 根拠法令等
事業の開始・ 終了	開始年度	2006	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	消耗品費 (補助額)	66	消耗品費 (補助額)	80	消耗品費 (補助額)	80	消耗品費 (補助額)	80
印刷製本費 (補助額)	122	印刷製本費 (補助額)	200	印刷製本費 (補助額)	200	印刷製本費 (補助額)	200	
手数料 (補助額)	11	手数料 (補助額)	30	手数料 (補助額)	30	手数料 (補助額)	30	
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
合計 (補助額)	199 0	合計 (補助額)	310 0	合計 (補助額)	310 0	合計 (補助額)	310 0	

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(3) 歴史民俗資料館入館者数(直近5年間の平均値)	人	4,578	5,378	4,896			6,000	7,000	

指標の分析
 コロナ禍による3か月ほどの臨時休館と企画展の中止(1回)により年間入館者数が減少したため、過去5年の平均値でも落ち込み、コロナ禍の影響が大きく表れました。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	市民が、自分の住むまちの歴史や文化に触れる場所として必要です。小学校3年生の学習に対応した「昔のくらし」の展示を行い、学校単位で多くの児童が訪れています。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	コロナ禍により夏の企画展は中止となりましたが、企画展開催期間以外に、特別展示室やロビーを活用したミニ展示を開催し、スペースの有効利用とリピーターの確保を図りました。また、印刷物だけでなくSNSによるPRを進めました。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	歴史民俗資料館に収蔵された資料の多くは市民からの寄贈によるものであり、それらを調査研究し活用するため、専門知識を有した市の職員により事業を実施していく必要があります。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	弥富市に関する様々なテーマで企画展を開催することにより、市の歴史文化の理解を深めるとともに、市の魅力のPRにつながります。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
企画展開催期間以外の展示室やロビー等を活用して展示を行うなど、施設の有効利用を進めます。また、引き続きSNSによるPRにも努めます。	現状維持

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(4-1)	文化人情報発信事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和3年7月8日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	4	市出身の文化人の顕彰	
	主要事業		文化人情報発信事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市出身の文化人について、資料収集や調査研究を進めるとともに、市内外に情報発信を行うことにより認知度を高め、文化芸術の振興に資することを目的とします。					主な協働・ 関連団体等	弥富ふるさとガイドボランティア
							弥富市文化協会
							弥富市擔風会
事業概要	市民団体との協働により、資料所在情報等の調査結果を共有し、資料収集と調査研究を進めるとともに、資料館活動を通して、さまざまな情報発信の機会を活用し普及活動を行います。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	
事業の開始・ 終了	開始年度	2006	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	美術工芸品購入費	0	美術工芸品購入費	50	美術工芸品購入費	50	美術工芸品購入費	50
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合計	0	合計	50	合計	50	合計	50
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(4) 文化人の普及に関する事業開催数 (展示会、講座、見学会等)	回	5	8	0			10	10	

指標の分析
 コロナ禍により各種事業が中止となり、歴史民俗資料館の常設展示のほかに情報発信の機会を設けることができませんでした。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	長年、文化芸術活動を継続している市文化協会などから、文化人の顕彰が求められています。弥富市の歴史や文化の理解を発信し続けることで郷土愛が育まれます。しかしながら、文化人の貴重な資源の掘り起こしが困難になってきているのも事実です。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	コロナ禍により各種事業が中止となり、出来る限り年度内に研究成果を得ようとはしましたが、購入すべき物品等を取引するまでの成果が得られなかったため、未執行となりました。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	市民から歴史民俗資料館に寄贈された文化人の作品が数多くあり、これらを調査研究する主な実施主体は文化協会や擔風会などがありますが、各団体単独で実施するのは財政的な面や情報発信網の面を考えると市が包括的にとりまとめ運営する必要があります。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	市出身の文化人について情報発信を進め、市の歴史・文化を正しく理解することは、市民の文化・芸術の振興につながります。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
資料収集、調査研究については今後も継続します。情報発信の機会を増やせるよう、移転後の歴史民俗資料館の展示に、年間複数回にわたり文化人の企画展を定期的を実施し、市ホームページの活用など情報発信手法を変えながら計画的にすすめていきます。	改善

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(4-2)	ガイドボランティア及び文化協会協働事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和3年7月8日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	4	市出身の文化人の顕彰	
	主要事業		ガイドボランティア及び文化協会協働事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化			
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #27ae60; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 3 すべての人に 健康と福祉を </div> <div style="background-color: #c0392b; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 4 質の高い教育を みんなに </div> <div style="background-color: #2980b9; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 17 パートナーシップで 目標を達成しよう </div> </div>			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市出身の文化人について、資料収集や調査研究を進めるとともに、市内外に情報発信を行うことにより認知度を高め、文化芸術の振興に資することを目的とします。					主な協働・ 関連団体等	弥富ふるさとガイドボランティア
							弥富市文化協会
							弥富市擔風会
事業概要	市民団体との協働により、資料所在情報等の調査結果を共有するとともに、市民文化展における文化人の展示コーナーの設置、ハイキング等におけるガイドの実施等、情報発信の機会を多く設け普及活動を行います。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	
事業の開始・ 終了	開始年度	2009	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
事業内訳		0		0		0		0
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合計	0	合計	0	合計	0	合計	0
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	

指標の分析	
-------	--

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	主体的な活動を継続している市民団体と連携し事業を実施することは、団体活動の活性化にもつながり、心豊かで文化を育む人づくりに資することができます。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	市民団体との協働により、大勢の人や関心のある人が集まる機会を活用して情報発信することで、コストをかけずに効果を期待することができます。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体で誰が実施するのが良いか 	市民団体の情報発信力は大きな効果が見込まれるので、主体的な活動を行っている各種団体との協働が必要です。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	文化人の顕彰、情報発信を通して、心豊かな人づくり、文化の薫り高いまちづくりに資することができ、市の魅力化につながります。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
今後も関係団体に対し、資料調査や情報提供などの活動支援を行い、団体活動を活性化する必要があります。また、歴史民俗資料館の移転後にはギャラリー等での展示会開催を計画していきます。	改善